

従業員のウェルビーイングと子どもとの関係の意識・実態調査

-10～18歳の子どもを持つ働く親を対象に、
仕事観やウェルビーイングとの関係に注目-

2025年11月20日

株式会社日本総合研究所
創発戦略センター／リサーチ・コンサルティング部門
子どもコミッションイニシアティブ



子ども コミッション イニシアティブ
KODOMO COMMISSION INITIATIVE

背景

- 企業は、従業員の賃金、労働時間、健康などを通じて、子どもの生活や成長にも関わっており、「子どもの権利とビジネス原則」でも重要な論点として示されている。近年は、短時間勤務やテレワーク、休暇制度の柔軟化など、仕事と家庭を両立しやすくする取り組みが広がってきた。
- また、企業では従業員のウェルビーイング（心身や社会的な充足感や幸福）を高める施策にも関心が高まるなか、ダイバーシティや健康経営といった組織としての施策に加えて、個人のウェルビーイングに影響を及ぼす働き方や組織の在り方について検討が見られるようになってきている。
- しかし、これらの施策で子どもを持つ従業員を対象としたものは「3歳まで」「小学校低学年まで」など、低年齢層の育児を想定したものが多く、それより上の年齢層（10～18歳）の子どもを持つ従業員はこれまで注目されてこなかった。一方でこの時期の子どもは、自らの進路選択時期を控えて職業に興味関心を持っていたり、ある程度自分で身の回りのことをできたりすることから、親の仕事や働き方に対する自分なりの思考を持っていると考えられる。
- こうした子どもとの関わりは、親の社会的ウェルビーイング^(注1)にも影響を及ぼすことが示唆されている。企業にとってはこうした子どもを持つ親への理解を深めることが重要であり、それがひいては子どもへ好影響をもたらすことにつながる可能性がある。

目的

- 10～18歳の子どもを持つ従業員を対象に、自身の子どもと関わるなかで形成される仕事観や生活観について、親自身の感じ方に着目してその意識や実態を明らかにする。
- これにより、企業が従業員のウェルビーイング向上に向けたさまざまな施策を検討するための素地を提供する。

(注1) 「社会的ウェルビーイング」の定義は複数あるが、ここでは個人に①社会との繋がりが、②自分の居場所・役割があって、③周囲に受け入れられていると感じること、と整理した。

(参考：村上芽(2024) [企業が従業員の社会的ウェルビーイングに取り組む意義](#) | 日本総研) 家族は社会の基本単位とされることから、親にとって子どもとの関わりは社会的ウェルビーイングに影響する。

調査概要	3
回答者属性	4
調査結果:自分と子どもとの関係	9
調査結果:子どもからの仕事への評価の受けとめ	14

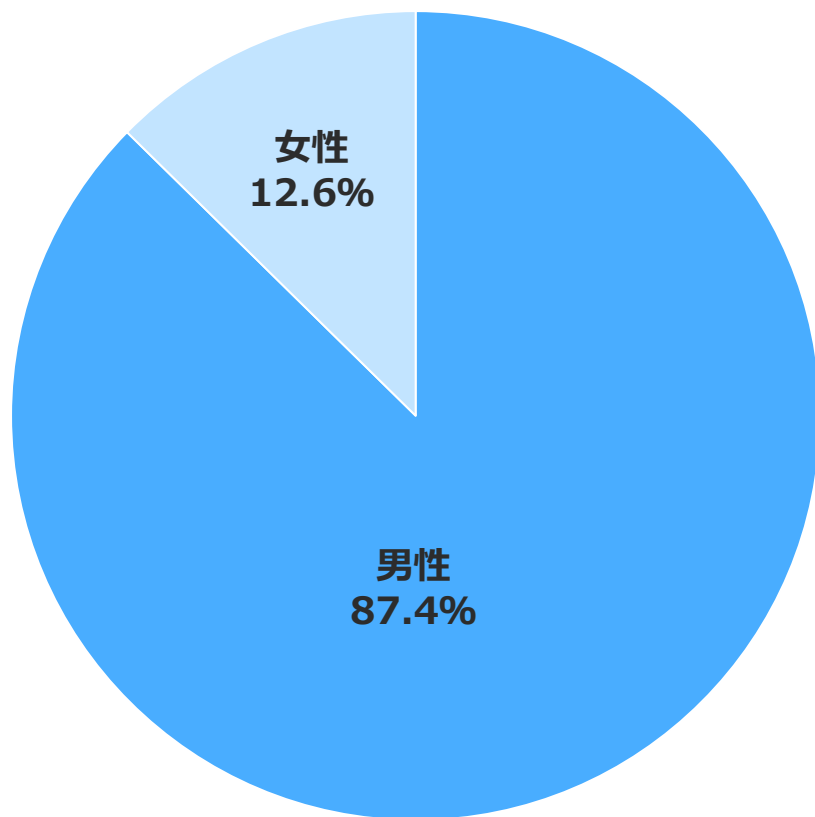
調査方法	インターネット調査（株式会社インテージに登録する調査パネルに質問）
調査対象	以下のスクリーニング条件に当てはまる人物 ・会社員、会社役員・管理職、公務員・団体職員、派遣・契約社員として就業している。 ・ここ半年の週当たり平均労働時間が20時間以上である。 ・日本国内に居住している。
回答者数	<p>下記の15職種ごとに、「10～18歳の子どもがいる」「10～18歳の子どもがいない」の2群を設定しそれぞれ300人ずつ、9,000人の回収を目標として、最終的に9,404人の有効回答を得た（注1）。本調査では、そのうち「10～18歳の子どもがいる」と回答した4691人の調査結果について集計・分析を実施した（注2）。</p> <p>【職種】</p> <p>1. 企画系（経営・経営企画・マーケティング） 2. コーポレート系（総務・法務・人事・経理・購買・広報等） 3. 営業 4. 一般事務 5. 販売・顧客サービス 6. IT・ソフトウェア開発 7. 製造・生産管理・品質管理 8. 物流・配送 9. 医療従業者・福祉専門職 10. 教員・保育者 11. 運転・輸送 12. 建設・建築従業者・技術職・職人 13. 研究開発 14.その他（士業、デザイナーなど専門職） 15. その他上記以外</p> <p>（注1） 14.その他（士業、デザイナーなど専門職）について、他の職種と同様に「10～18歳の子どもがいる」回答者を300人集めることを目標としたが、調査時にこの目標に達することはなかった。集計・分析に当たっては特にウェイトバックの補正などを行わず、147人の回答をそのまま集計・分析した。</p> <p>（注2） 10～18歳の子どもが複数いる場合、その中で最年少の子を念頭に回答してもらった。</p>
調査期間	2025年8月19日（火）から8月22日（金）

回答者属性

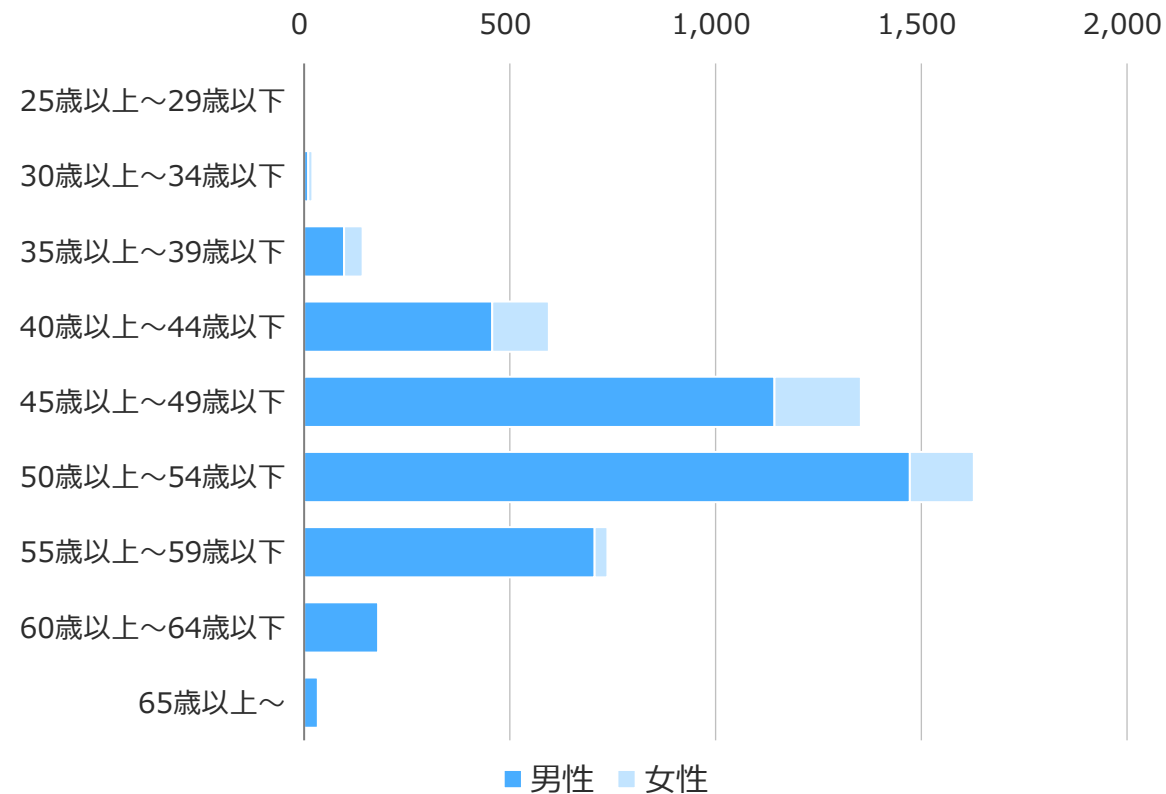
回答者属性_性別・年代（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

男性が9割弱を占め、平均年齢は約52歳であった。また、平均年齢には男女で4歳程度の差があった。

F1. あなたの性別をお答えください。【単一回答】



F2. あなたの年齢をお答えください。【単一回答】



平均値51.9 中央値 52

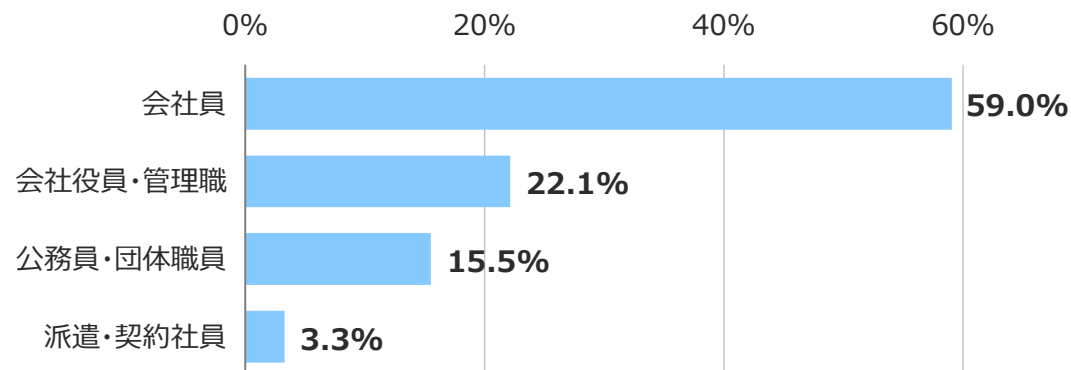
うち男性：平均値 50.5 中央値 51

うち女性：平均値 46.7 中央値 47

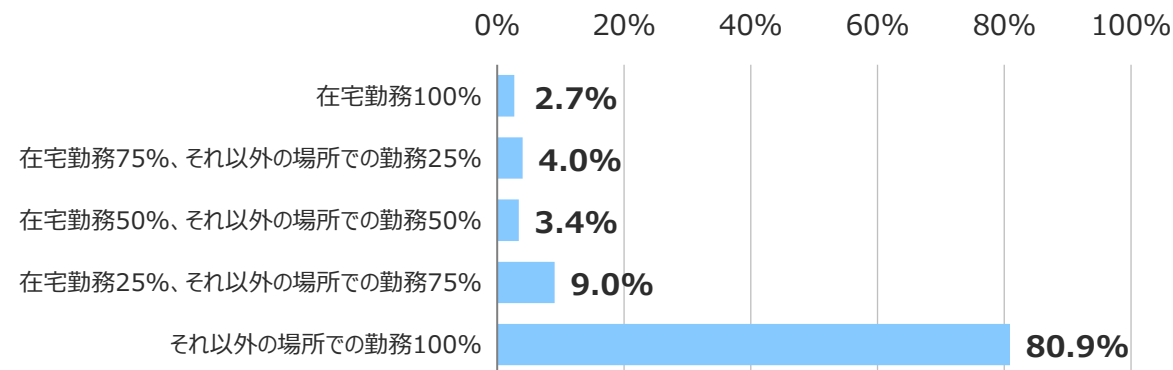
回答者属性_就業状況・労働時間・勤務場所・通勤時間（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

会社員が59%で、会社役員・管理職は22.1%であった。労働時間は、週40時間以上労働する人が80%以上であった。勤務場所は、在宅以外で勤務する人が80%以上であった。

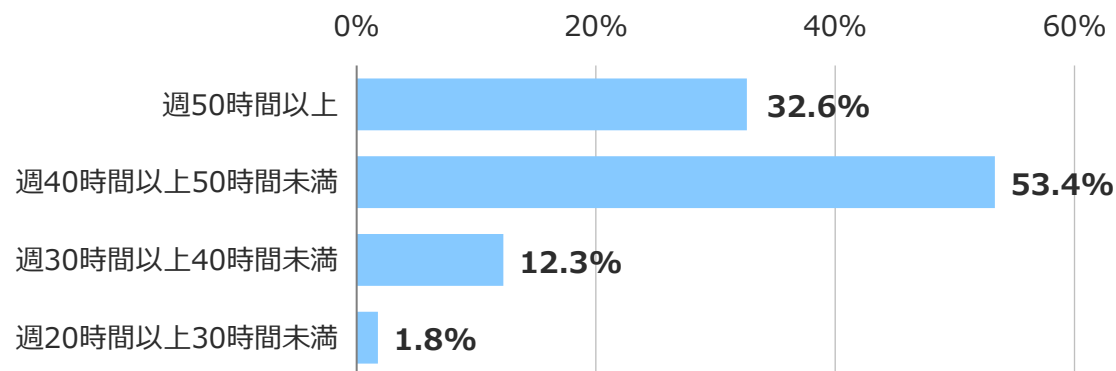
QS1. あなたの今の就業状況に最も近いものをお選びください。【単一回答】



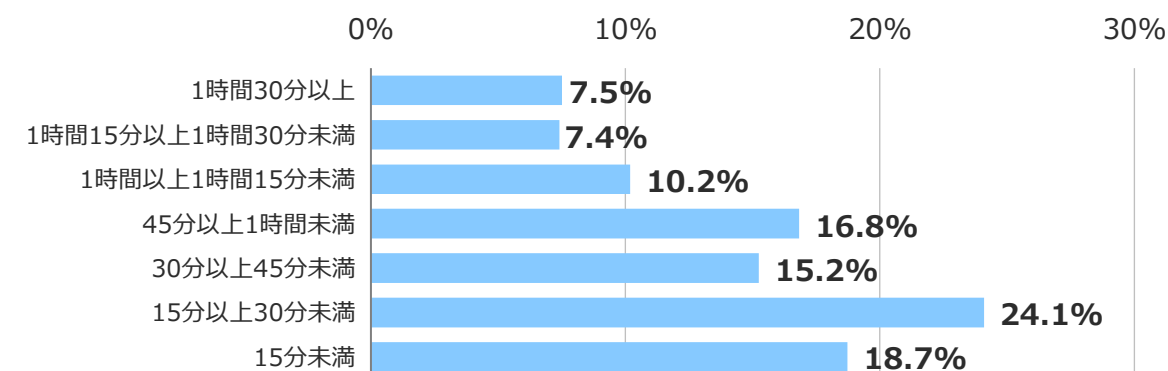
Q2. あなたのここ半年の在宅勤務（働く場所に制約がない勤務）とそれ以外（職場、外勤）での勤務の割合に最も近いものを1つお選びください。【単一回答】



QS2. あなたのここ半年の労働時間の平均をお答えください。【単一回答】

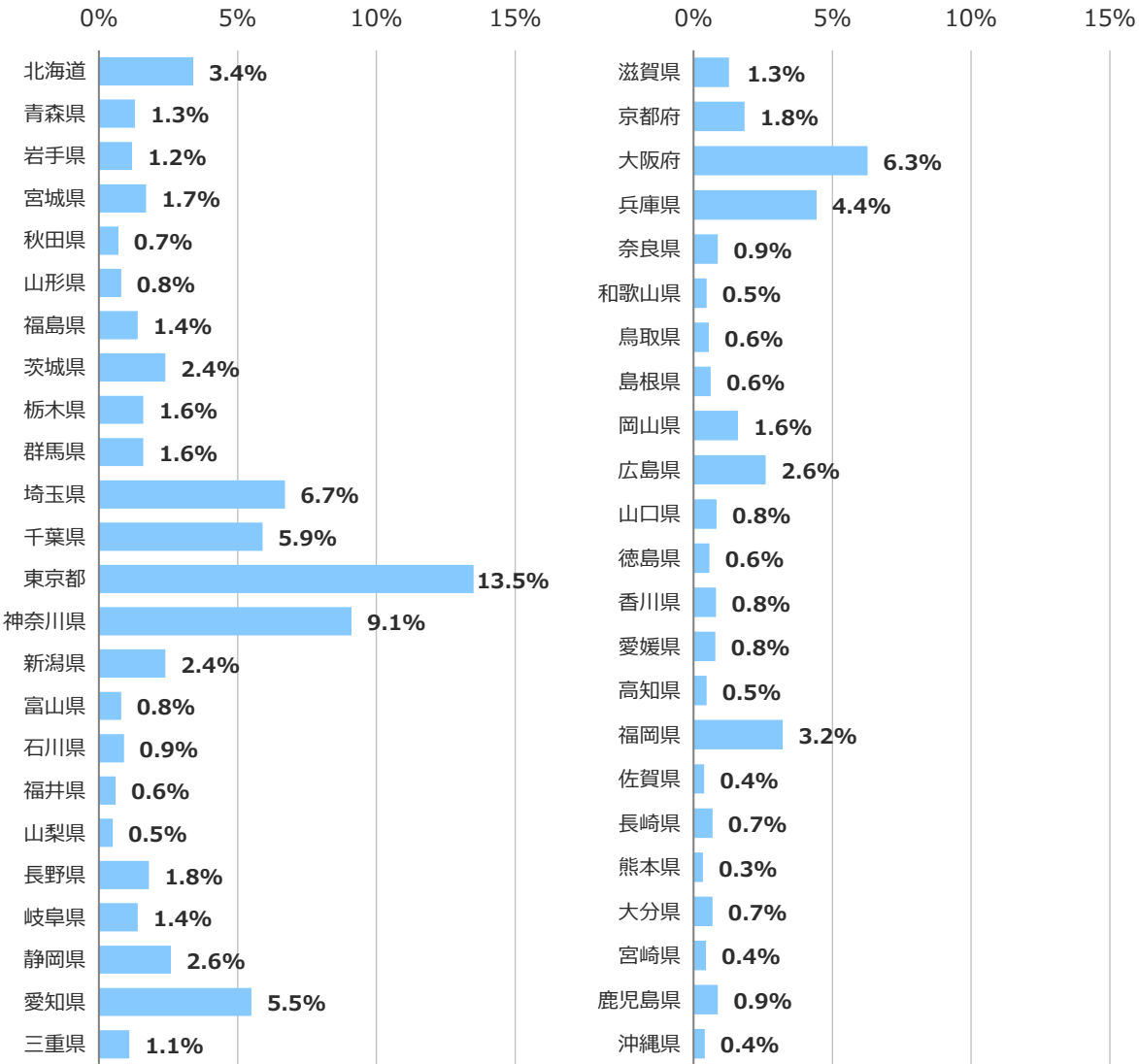


Q3. あなたの在宅以外の勤務場所（職場・外勤）までの片道の通勤時間として、最も近いものを1つお選びください。【単一回答】

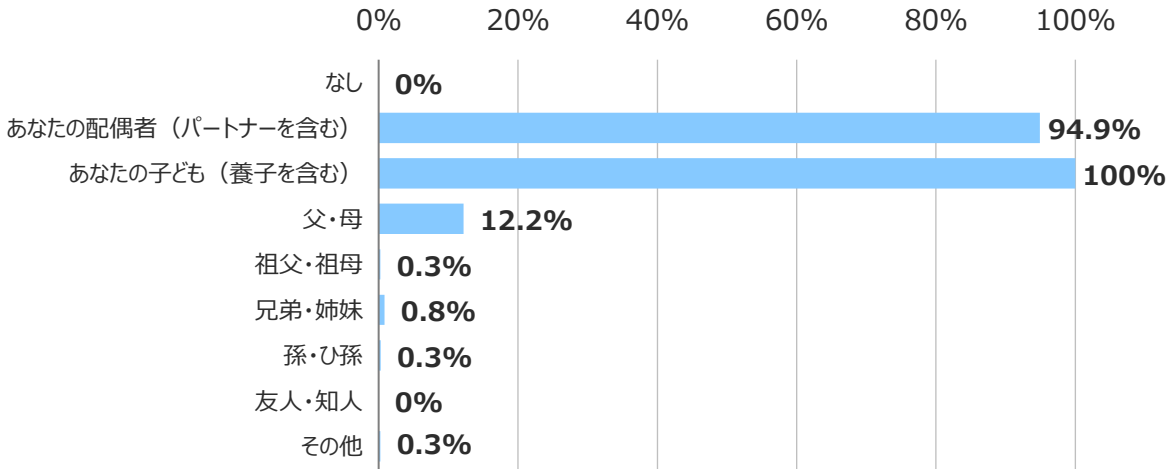


回答者属性_居住地・同居家族・子どもの人数（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

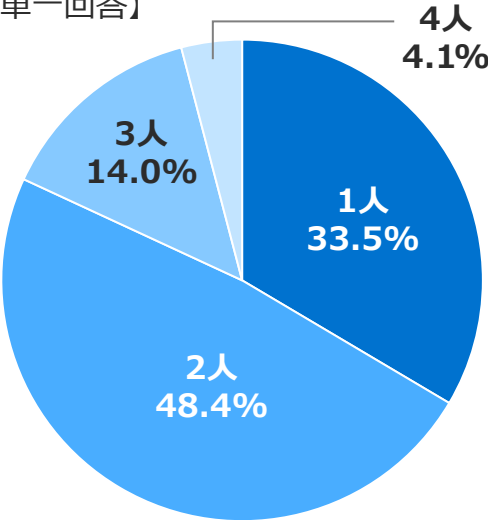
QS3. あなたがお住まいの都道府県をお答えください。【単一回答】



QS5. 同居する家族について、当てはまるものをすべてお選びください。【複数回答】

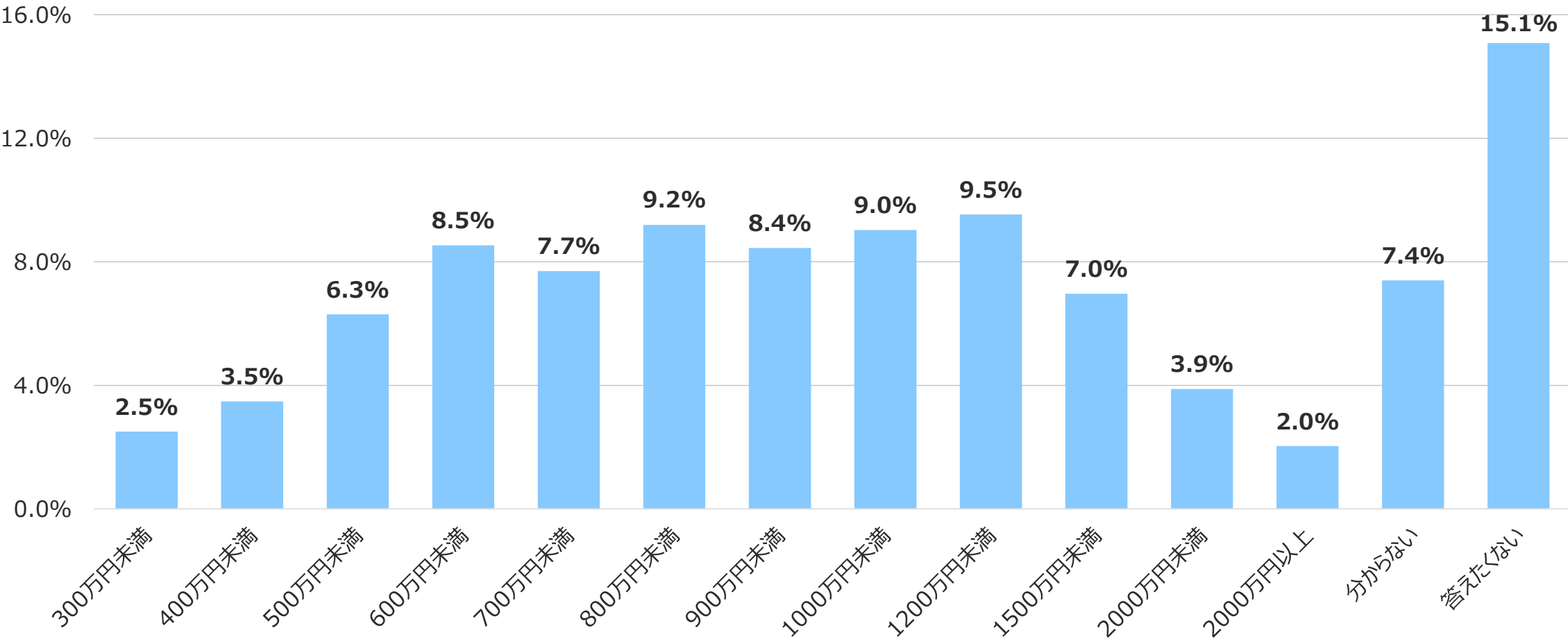


QS6. 同居するあなたの子ども（養子を含む）の人数について、当てはまるものを1つお選びください。【単一回答】



回答者属性_世帯税込年収（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

QW15 世帯税込年収【単一回答】

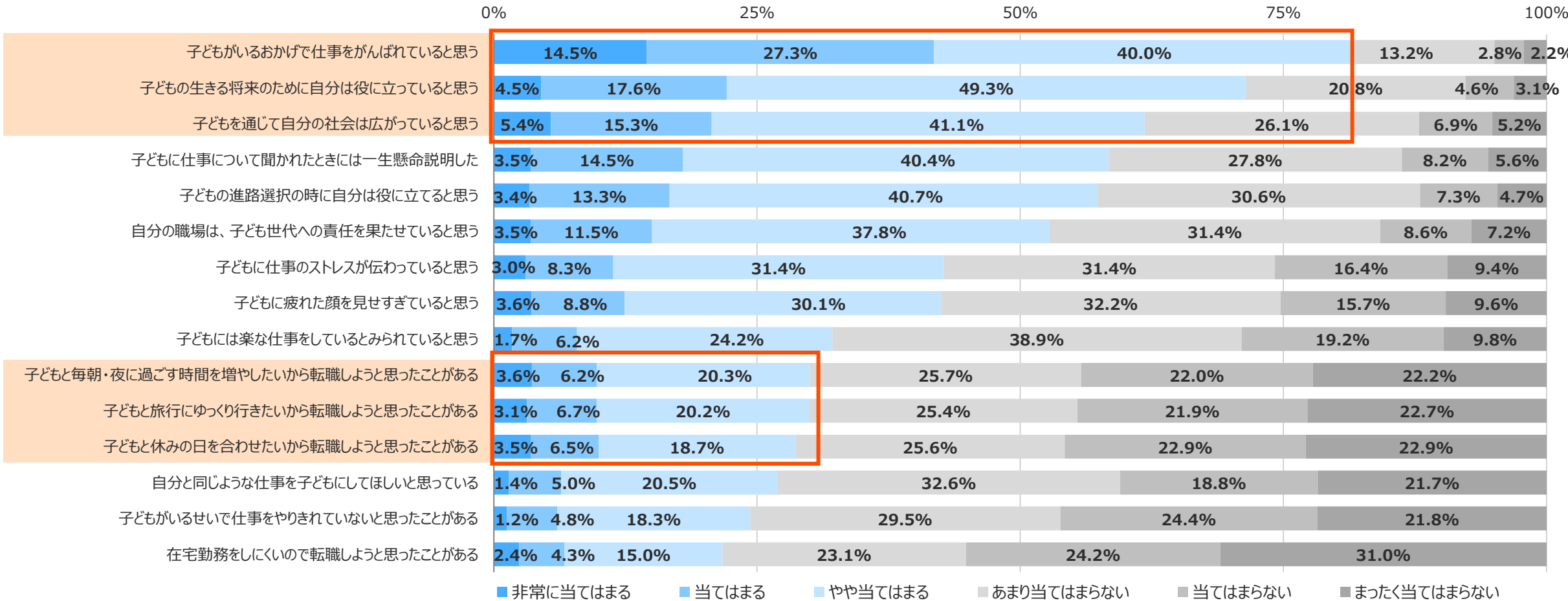


調査結果：自分と子どもとの関係

子どもとの関係を通じた仕事の評価（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

半年間に経験したことの上位は、順に「子どもがいるおかげで仕事を頑張れていると思う」「子どもの生きる将来のために自分は役に立っていると思う」「子どもを通じて自分の社会は広がっていると思う」だった。また、子どもとの時間を確保するため転職を検討したという回答も約30%あった。

Q19. あなたは過去半年間で、以下のような経験はありましたか。最も近いものを1つずつお選びください。【単一回答】

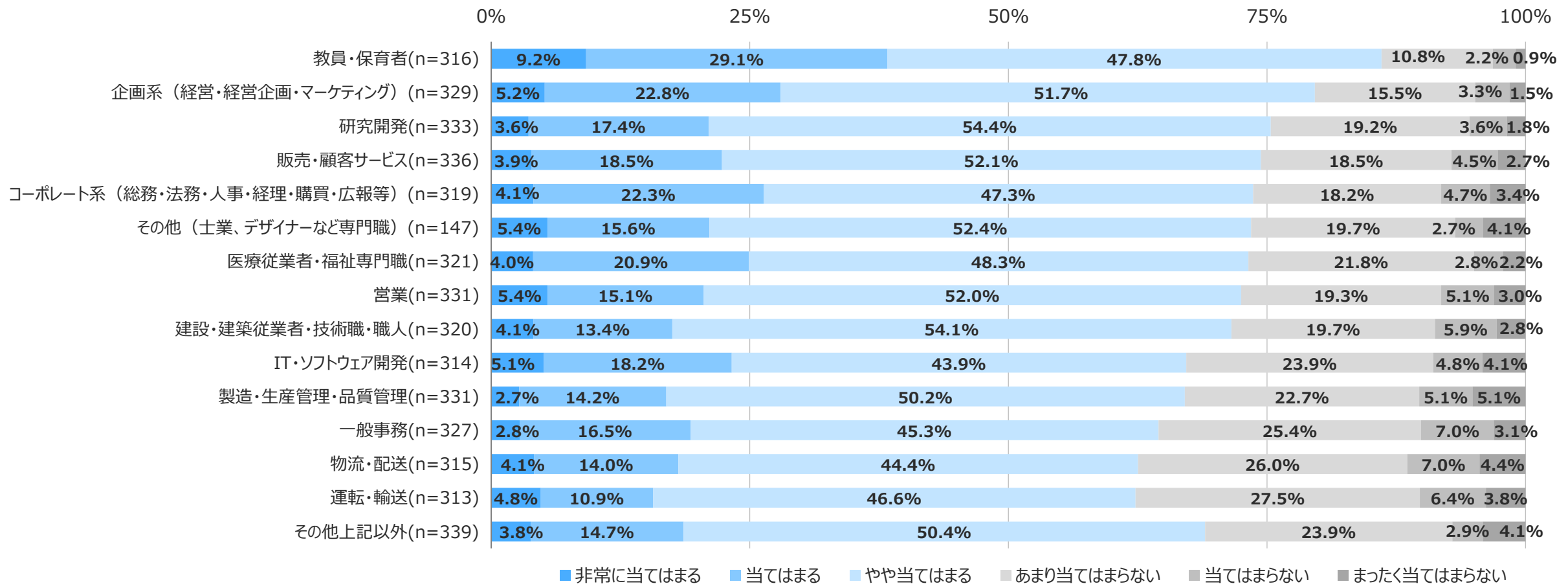


子どもとの関係を通じた仕事の評価（10～18歳の子どものいる回答者 n=4691）

子どもの生きる将来のために自分が役に立つと思った経験を職種別に見ると、すべての職種で60%以上と高い傾向があり、子どもと関わることの意義を感じていることが伺えた。一方で約62%～86%のばらつきがあり、業務内容等によってその感じ方に差がある可能性が示唆された。

Q19. あなたは過去半年間で、以下のような経験はありましたか。最も近いものを1つずつお選びください。【単一回答】

(6) 子どもの生きる将来のために自分は役に立っていると思う

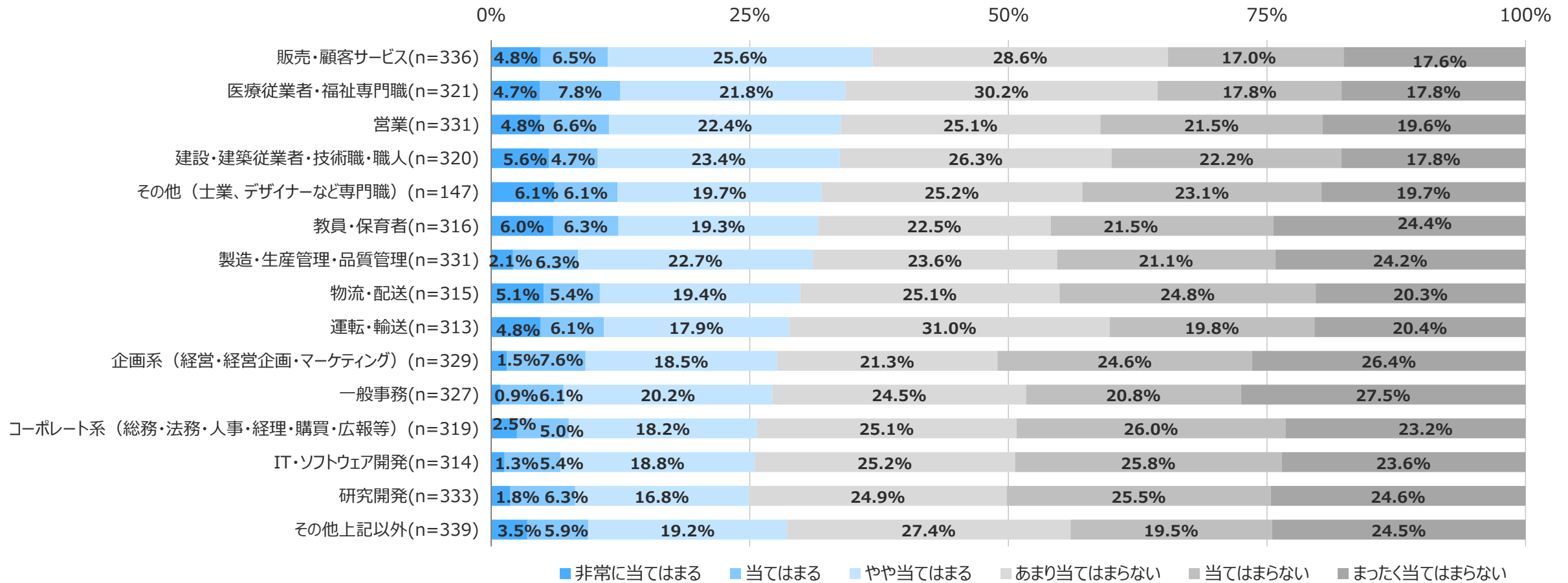


子どもとの関係を通じた仕事の評価（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

子どもと毎朝・夜に過ごす時間を増やすために転職しようと思った経験を職種別に見ると約25～37%の範囲で見られた。すべての職種で3～4人に1人は子どもとの時間の確保をするため働き方を変える検討をしたことがあり、10～18歳の年齢層の親において共通性のある価値志向であることが示唆された。

Q19. あなたは過去半年間で、以下のような経験はありましたか。最も近いものを1つずつお選びください。【単一回答】

(1) 子どもと毎朝・夜に過ごす時間を増やしたいから転職しようと思ったことがある

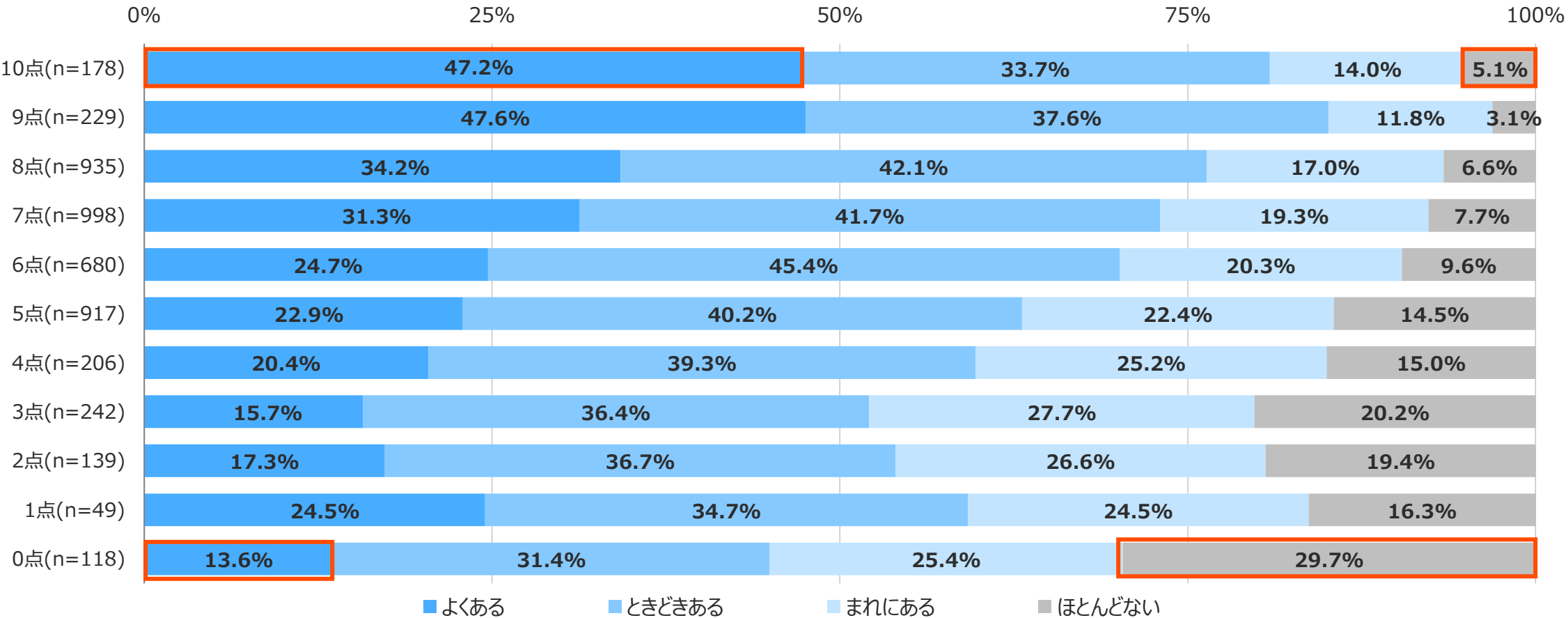


子どもとの関係を通じた生活の評価 子どもとの団らん（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

仕事のある平均的な1日に、30分以上子どもと団らんすることが「よくある」と回答した人は、生活満足度10点で47.2%となり、0点の13.6%と比べ約34ポイント高かった。一方で「ほとんどない」と回答した人は生活満足度10点で5.1%となり、0点の29.7%と比べて約25ポイント低かった。これらの結果から子どもとの団らんの頻度が高いと生活満足度も高い傾向にあることが示唆された。

Q5. あなたは、仕事のある平均的な1日に、以下の活動に30分以上費やすことがどれくらいありますか。最も近いものを1つずつお選びください。【単一回答】**

(4) 子どもとの団らん



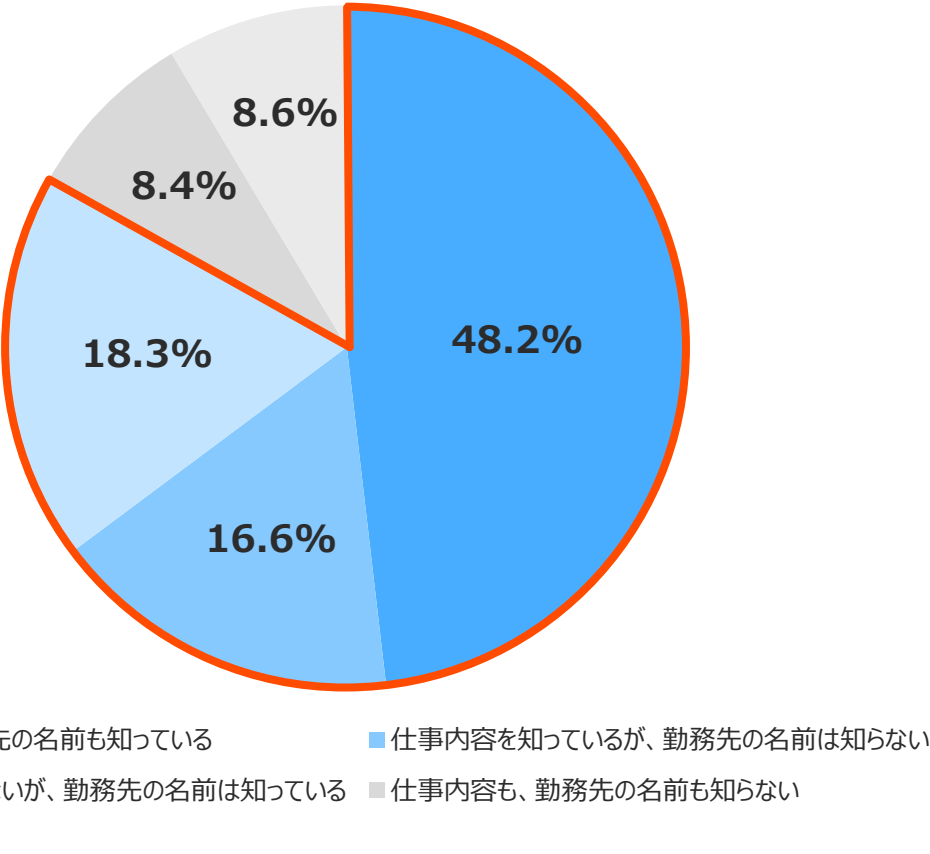
**10～18歳の子どもがいる回答者の生活満足度（10点満点）の平均は6.2点だった。

調査結果：子どもからの仕事への評価の受けとめ

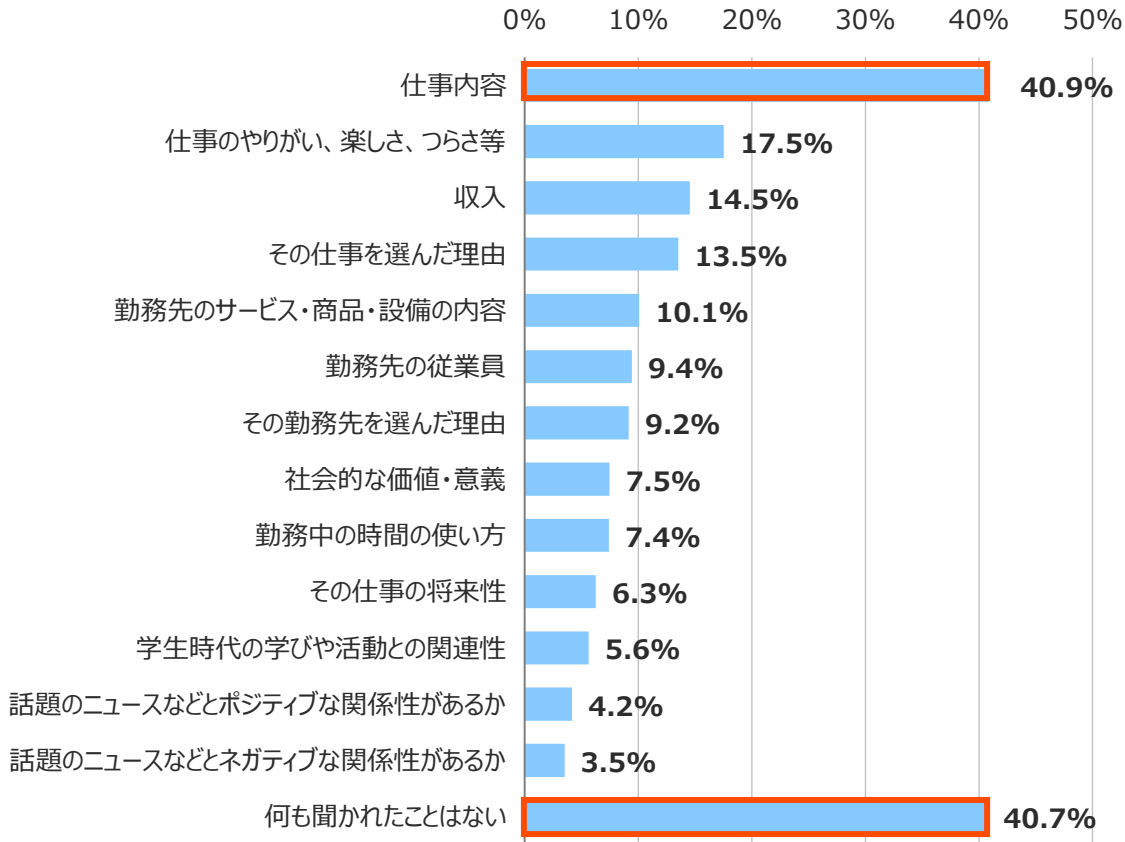
子どもからの仕事の認知状況（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

子どもが自分（親）の仕事内容や勤務先のいずれかは知っている回答は80%以上であり、親の仕事に一定の認知があることが伺えた。仕事に関連し子どもから聞かれたことがあることは、「仕事内容」と「何も聞かれたことがない」がそれぞれ約40%であった。

Q13. その子*はあなたの仕事を知っていますか。最も近いものを1つお選びください。
【単一回答】



Q14. その子*に、あなたの仕事について以下のことを聞かれたことはありますか。
該当するものをすべてお選びください【複数回答】

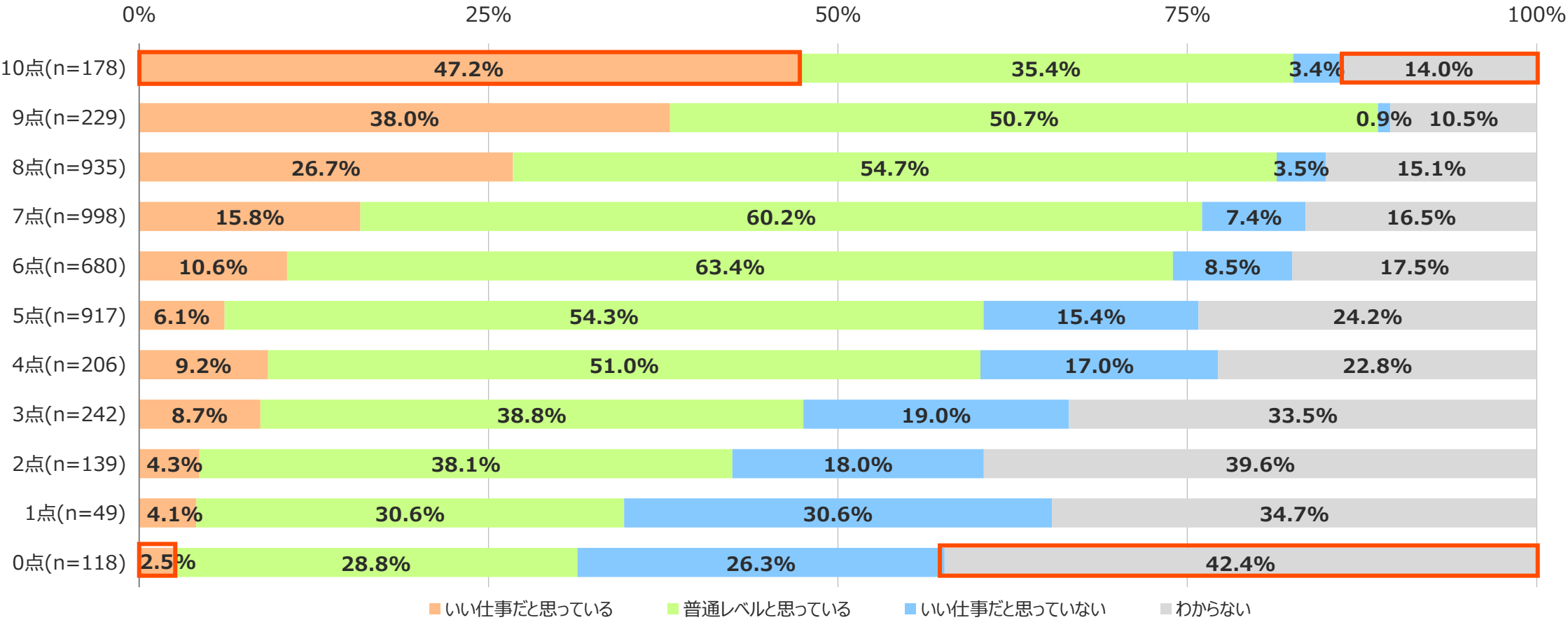


* 回答者と同居する10～18歳の子ども。複数いる場合、その中で最年少の子。

生活満足度別回答 子どもからの仕事に関する評価の受けとめ（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

子どもが自分（親）の仕事を「いい仕事だと思っている」と回答した人は生活満足度10点では47.2%となり、0点の2.5%に比べて約45ポイント高かった。また「わからない」と回答した人は生活満足度10点で14.0%であり、0点の42.4%と比べて約28ポイント低かった。これらの結果から、子どもから仕事の評価が良いと感じている人ほど生活満足度も高い傾向にあることが示唆された。

Q15. その子*は、あなたの仕事をどう思っていますか。最も近いものを1つお選びください。【単一回答】**



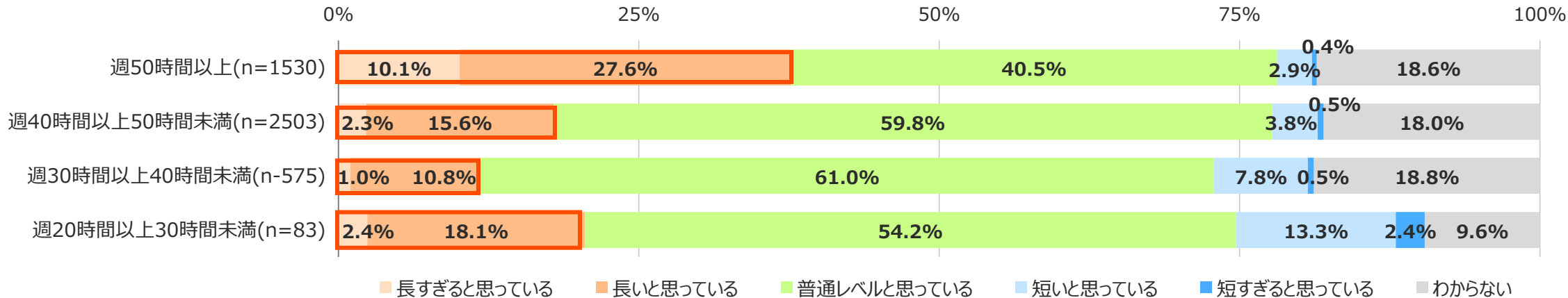
* 回答者と同居する10～18歳の子ども。複数いる場合、その中で最年少の子。
**10～18歳の子どものいる回答者の生活満足度（10点満点）の平均は6.2点だった。

子どもからの働く時間に関する評価の受けとめ（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

子どもは自分（親）の働く時間を「長すぎると思っている」「長いと思っている」と回答した人は、労働時間「週50時間以上」で最も多く37.7%であった。週30時間以上よりも、30時間未満において「長いと思っている」という回答の割合が高く、評価には回答者における労働時間の期待値との差分等による個人差が存在する可能性も見られた。

クロス集計結果

- ・QS2. あなたのここ半年の労働時間の平均をお答えください。【単一回答】
- ・Q16. その子*は、あなたの働く時間についてどのように考えていますか。最も近いものを1つお選びください。【単一回答】

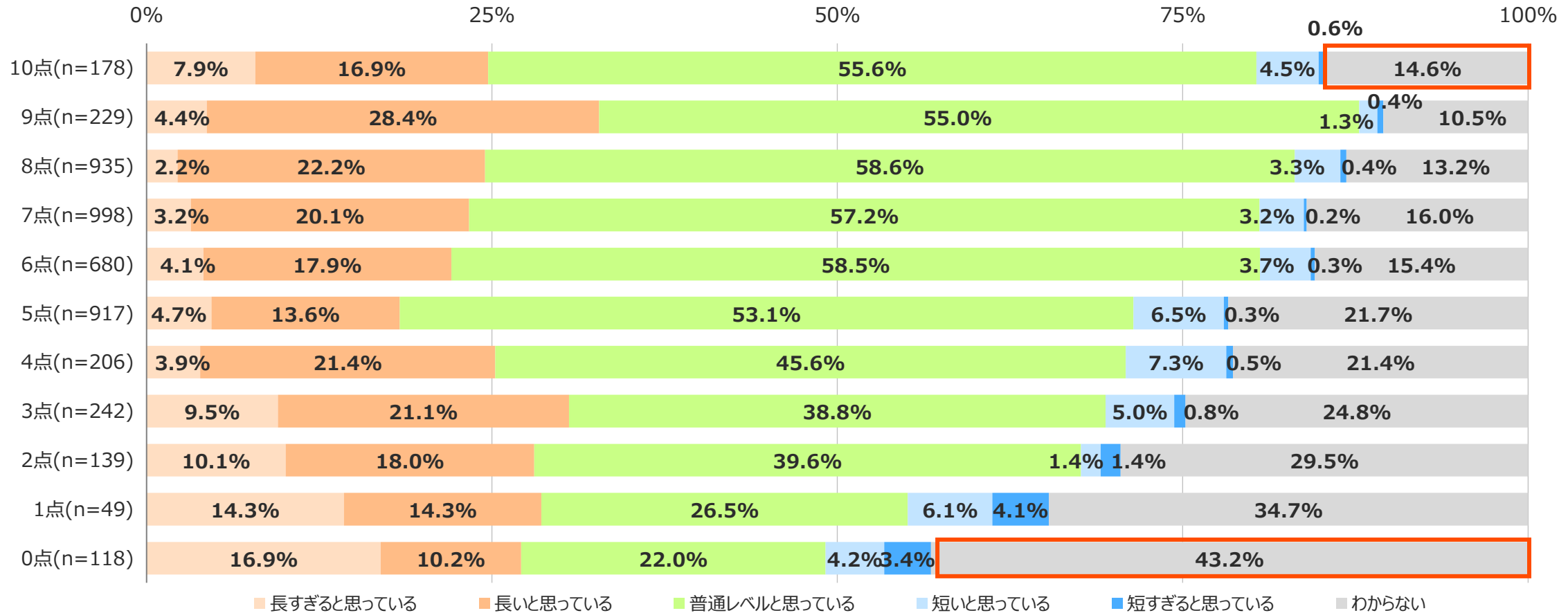


* 回答者と同居する10～18歳の子ども。複数いる場合、その中で最年少の子。

生活満足度別回答 子どもからの働く時間に関する評価の受けとめ(10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691)

子どもからの自分（親）の働く時間の評価が「わからない」と回答した人は、生活満足度10点では14.6%となり、0点の43.2%と比べて約29ポイント低くなった。一方で、働く時間の長短については、子どもからの評価と生活満足度の間に特徴的な傾向は見られなかった。

Q16. その子*は、あなたの働く時間についてどのように考えていますか。最も近いものを1つお選びください。【単一回答】**



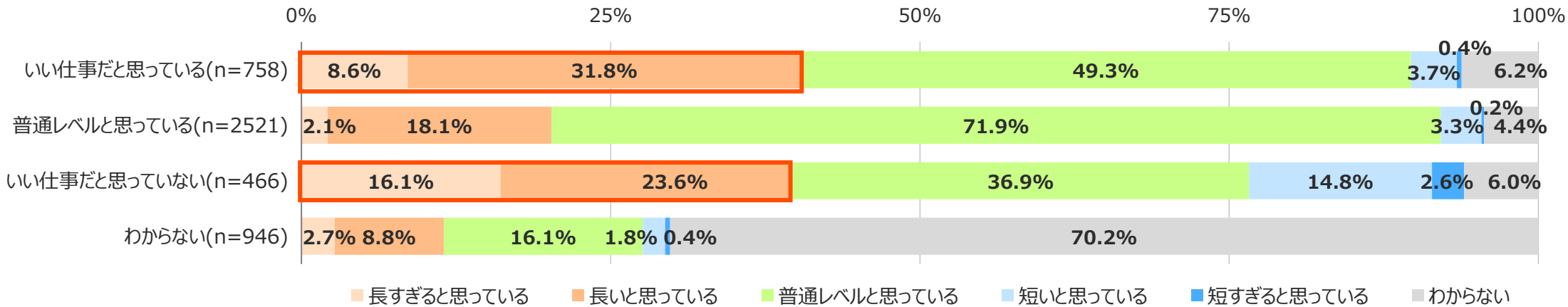
* 回答者と同居する10～18歳の子ども。複数いる場合、その中で最年少の子。
**10～18歳の子どもがいる回答者の生活満足度（10点満点）の平均は6.2点だった。

子どもからの働く時間に関する評価の受けとめ（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

子どもが自分（親）の働く時間を「長すぎると思っている」「長いと思っている」と回答した人は、子どもが自分（親）の仕事を「いい仕事だと思っている」と回答した人にも、「いい仕事だと思っていない」と回答した人にも合計約40%ずついる結果となった。このことから、子どもからの仕事の評価につながる要因が、働く時間の長さだけではないと受けとめていることが示唆された。

クロス集計結果

- ・Q15. その子*は、あなたの仕事をどう思っていますか。最も近いものを1つお選びください。【単一回答】
- ・Q16. その子*は、あなたの働く時間についてどのように考えていますか。最も近いものを1つお選びください。【単一回答】



* 回答者と同居する10～18歳の子ども。複数いる場合、その中で最年少の子。

▶ 10～18歳の子どもを持つ従業員と子どもの関係について

- 10～18歳の子どもを持つ従業員は、「子どもの将来のために役に立っている」という実感を持ち、また、職種に関わらず3～4人に1人は子どもと過ごす時間を確保するために仕事や働き方を変えようと検討した経験があったことから、親の生き方や働き方において子どもとの関わりが重要であることが示唆された。
- これらの結果は、企業が従業員のウェルビーイング向上のための施策を検討する際に、この年齢層の子どもを持つ親の価値観として留意すべきである。

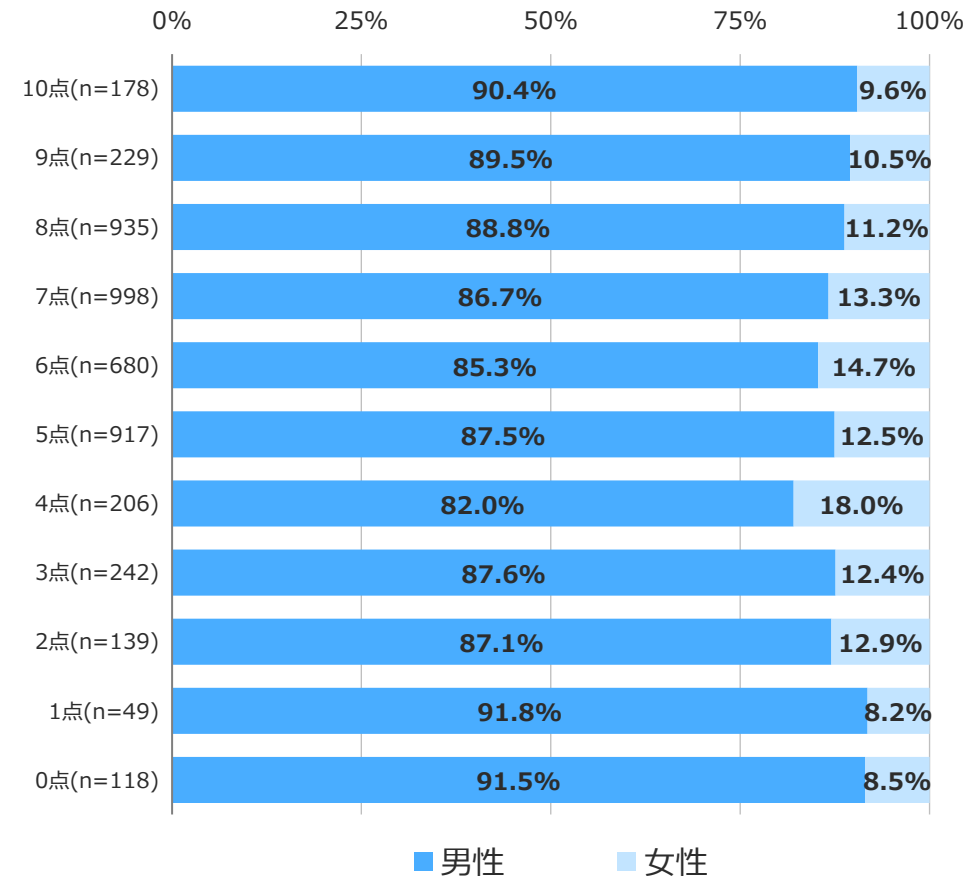
▶ 子どもからの評価の受けとめについて

- 子どもと団らんすることや、子どもから仕事が評価されていると感じることが親の生活満足度に良い影響を及ぼす傾向が見えたと同時に、働く時間の長さだけが問題とは言えないことも示唆された。
- これらの結果を踏まえて企業が取りうる施策の一例としては、勤務時間を短縮するばかりでなく、親である従業員が子どもと関わりを持ちながらも、自らの仕事観で満足して働ける環境を整備することである。こうした環境の整備にあたっては、幼い子どもの育児をする親といった特定の状況や人に対する配慮だけに留まらない施策を検討する視点も必要となる。

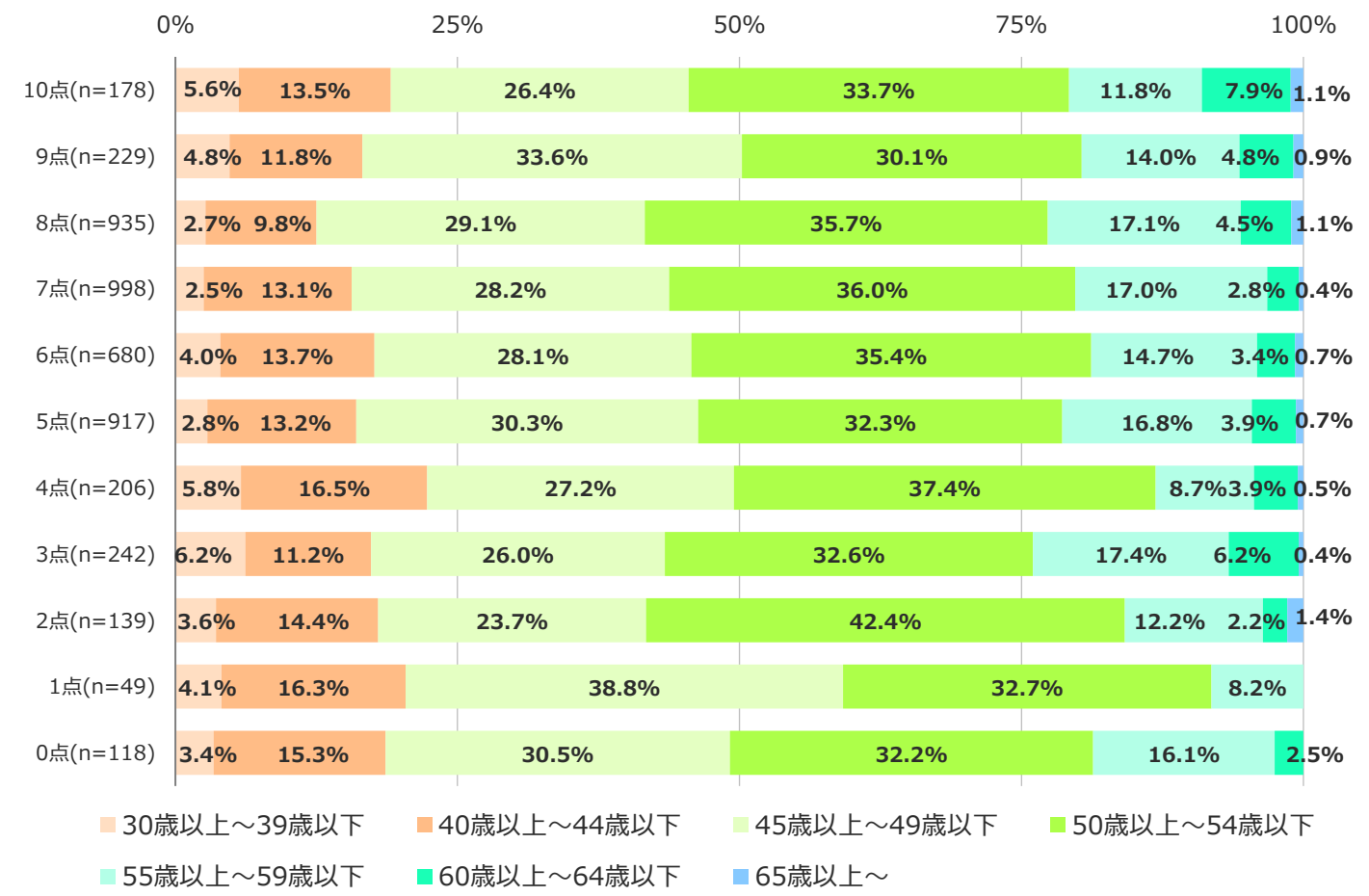
参考情報

【参考】回答者属性_性別・年代と生活満足度（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

F1. あなたの性別をお答えください。【単一回答】**



F2. あなたの年齢をお答えください。【半角数字】**

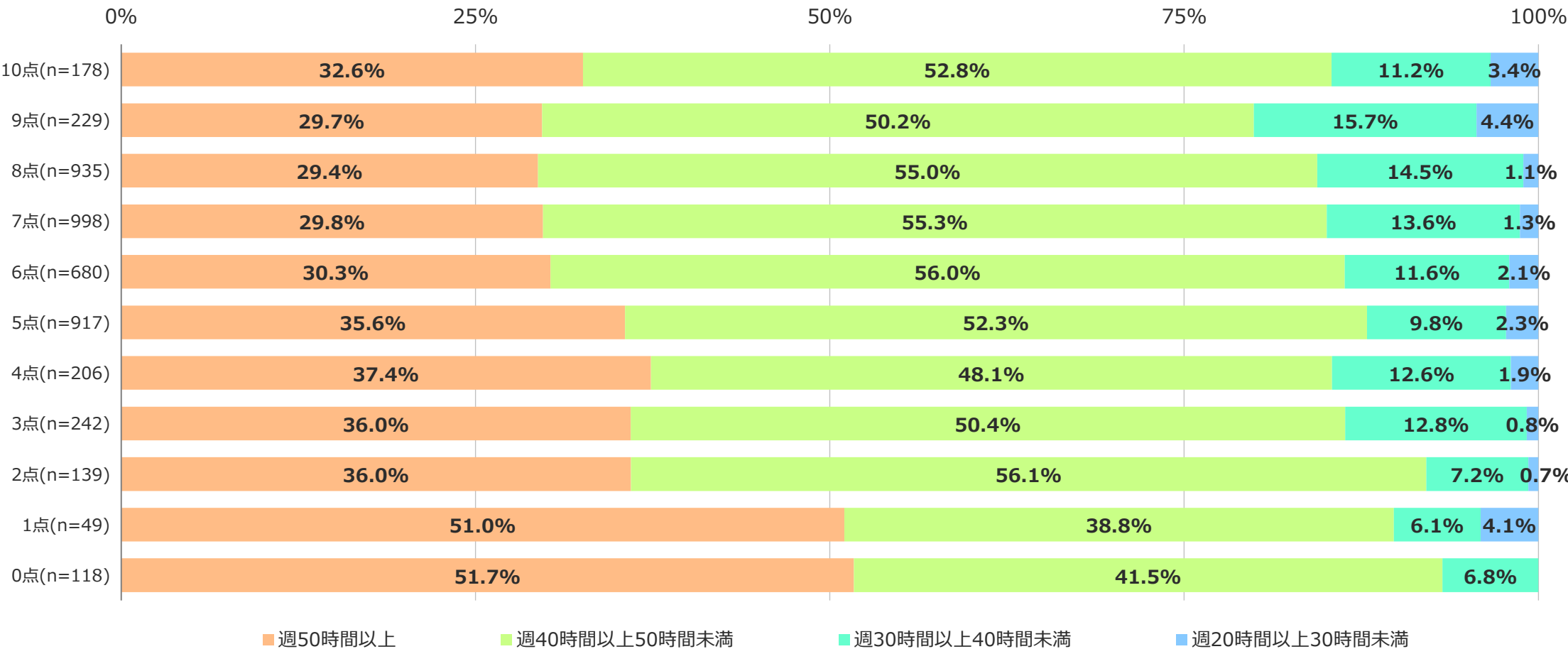


**10～18歳の子どもがいる回答者の生活満足度（10点満点）の平均は6.2点だった。

【参考】回答者属性_労働時間と生活満足度（10～18歳の子どもがいる回答者 n=4691）

平均労働時間が週50時間以上の人は生活満足度が0点、1点の回答が半数を超え、生活満足度が低くなる傾向が見られた。

QS2 あなたのここ半年の労働時間の平均をお答えください。【単一回答】**



**10～18歳の子どもがいる回答者の生活満足度（10点満点）の平均は6.2点だった。

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

インキュベーションプロデューサー 清水 久美子
E-mail: shimizu.kumikoatjri.co.jp

チーフスペシャリスト 村上 芽
E-mail: murakami.megumuatjri.co.jp

ご連絡の際はatを@に変換してお送りください。

株式会社
日本総合研究所

〒141-0022
東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング

〒550-0001
大阪市西区土佐堀2丁目2番4号 土佐堀ダイビル

本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。